

新春の富士山



2016 年元旦 山梨にて撮影

落合 英俊 (写真部部长)



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 大場 尚文

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

また、第 53 回芸術祭の巡回展では、富谷市の市制移行を記念して、絵画・書道展を開催いたしました。展示会場の成田公民館では、当協会会員による茶会やコンサートも実施し、多くの小学生、市民に茶会の体験と臨場感溢れる音楽を楽しんでもら

地域貢献に注力していく覚悟を新たにしたいと考えています。最後に、本年の皆さまのさらなるご活躍とご多幸を祈念申し上げます。挨拶いたします。



魅力ある活動で 地域貢献に注力

宮城県芸術協会理事長
大場 尚文

当協会の活動が認められ、支援され続けるためには、これらの方々の琴線に触れる魅力ある活動を継続することが重要であることは言を待ちません。年頭にあたり、宮城の芸術文化振興のパートナーとして、賛助会員との連携をさらに強化しながら

明けましておめでとうございます。皆さまには輝かしい新年をお迎えのことと存じます。昨年を振り返りますと、美里町でのミュージックフェスタ、東京エレクトロンホール宮城での芸術祭絵画受賞者展、カメイ美術館での「選ばれし作品の軌跡」展などは「愛する郷土の芸術文化の興隆のための奉仕者となる」と宣言した芸協創立精神に基づき活動そのもので、それをさらに前進させた年でもあったと言えます。

いました。当協会の存在を大いにアピールできたと思います。さらに、賛助会員として 65 団体 8 個人の方々に入会していただいたこともこの 1 年の特筆すべき出来事であります。表彰式の祝宴では、出席した賛助会員を紹介し、芸術祭の成功を共に喜び合いました。

第53回宮城県芸術祭来場者数

事業名	入場者数
開会式	82
華道展	2,841
写真展・写真公募展	2,752
絵画展（公募の部）	2,533
彫刻展・彫刻公募展	2,533
絵画展（会員展）	8,510
書道展	3,862
工芸展	1,655
ピアノコンクールガラコンサート	347
文学散歩	36
音楽会	508
長唄演奏会	200
茶会	3,784
文芸祭	150
絵画・書道展富谷展	779
表彰式	264

参加行事

事業名	入場者数
第60回仙台三曲協会定期演奏会	411
第47回洋舞公演	950

受賞者・功績者80人を表彰

—第53回宮城県芸術祭表彰式—

平成28年度の第53回宮城県芸術祭は、11月までに計画された各事業を順調に実施し、11月24日、写真・彫刻・絵画・書道・工芸・文芸の各分野の受賞者などを対象に表彰式を行った。

また、受賞者表彰に併せて、芸術協会功績者表彰や県文化の日表彰受賞者に対する記念品の贈呈も行われた。

平成28年9月23日に開幕した第53回宮城県芸術祭は、各事業が成果を挙げながら順調に進み、これまで終了した事業を対象に、11月24日、ホテルメトロポリタン仙台で表彰式を行った。表彰式には各賞の受賞者をはじめ、来賓、芸術祭関係者など264人が参加した。

開会にあたって、芸術祭会長の大場尚文宮城県芸術協会理事長があいさつ。「芸術祭はこれまで半世紀以上にわたり、幅広い分野で意欲的な活動をしてきた。芸術の素晴らしさは経済効果などのように数値で表すことはできないが、近年、芸術文化への関心が一層高まっており、地域の特徴を活かしながら、伝統文化を継承させ、社会的な取り組みをさらに広げていきたい」と述べた。

引き続き主催団体を代表し



大場理事長から表彰を受ける功績者

洋楽、邦楽、茶道の14人に功績者表彰

11月24日にホテルメトロポリタン仙台で行われた、第53回宮城県芸術祭表彰式では、併せて長年にわたり当協会に寄与した会員への功績者表彰が行われた。表彰を受けたのは、洋楽部1人、邦楽部2人、茶道部11人の14人で、大場理事長から表彰状と記念品が贈られた。受賞者は次のとおり（敬称略）。

- 「洋楽部」 渡部勝彦
- 「邦楽部」 佐藤佳世子・鎌田佐美音（三曲）
- 「茶道部」 秋田宗優・佐藤宗秀（裏千家）、福井宗美（江戸千家）、中野清祥・平井昌泉（煎茶三彩流）、奥山南仁・濱田南信（織田流煎茶道）、松田晋禮（玉川遠州流）、芳賀静仙（煎茶文雅静庵流）、齋藤守保（武者小路千家）、堀越純功（煎茶道清泉茗流）

て、芸術祭名誉会長・一力雅彦河北新報社代表取締役社長（代理）のあいさつがあり、主催七団体代表者と来賓が紹介された。次に受賞者66人の表彰が行われ、賞状と記念品が贈られた。

また、宮城県芸術協会功績者14人の表彰もあり、大場理事長から表彰状と記念品が授与された。続いて宮城県文化の日表彰（教育文化功労）の3人が紹介され、記念品が手渡された。

祝宴は、公益財団法人カメイ社会教育振興財団事務局長今西晃一氏の乾杯の発声で開宴。今年度、多くの加入があった団体、個人の賛助会員が特に紹介され

るなど、受賞者を中心に部門を超えての交流が深まり、華やかで有益な2時間となった。

第53回芸術祭の表彰式後の予定としては、7月から始まった写真セミナー5回シリーズの5回目（12月8日（木））が行われ、ピアノコンクール予選が2月11日（土）に予定されており、今年度の芸術祭がすべて終了するのは3月19日（日）のピアノコンクール本選となる。

文化の日表彰は三会員に

宮城県は、県下の各分野で多年にわたり県勢の進展、県民福祉の増進、芸術文化の向上等に

私は芸術協会を応援します

新賛助会員

（個人）

◇安孫子 南美 様

文化庁平成28年度地域文化功労者表彰

佐久間、渡辺両名誉会員が受賞

文化庁の平成28年度地域文化功労者に対する表彰式が昨年12月2日、東京・霞が関の文部科学省で行われ、当協会の佐久間晟名誉会員（文芸部）と渡辺雄彦名誉会員（絵画部）が受賞した。

地域文化功労者表彰は、全国の各地域で芸術文化の振興、文化財の保護などに功績のあった個人、団体を対象に1983年度から実施されており、本年度は芸術文化分野で53件、文化財分野で45件、合わせて98件が表彰された。



佐久間 晟
名誉会員

佐久間名誉会員は「永年にわたり宮城県芸術協会参事等を務め、地域文化の振興に貢献している」ことが評価された。歌人として、宮城県歌人協会会長などを務めたほか、宮中歌会始聴者や毛越寺曲水の宴の指導など多方面で活躍。歌集に「沙魚」「銀鶏の日々」「蔵王の歌」、歌書に「前田夕暮の書簡」がある。1926年、塩釜市生まれ。



渡辺 雄彦
名誉会員

渡辺名誉会員は「永年にわたり宮城県芸術協会副理事長等を務め、地域文化の振興に貢献している」ことが評価された。宮城県美術館協議会委員なども歴任。2007年に2回目の日展特選、2011年日展審査員。現在は宮城教育大学名誉教授、日展会員、日洋会理事（東北支部長）、河北美術展参与など。1933年、相馬市生まれ。

新年を迎えて、今年も思い起こした歌がある。

何となく、

今年はいい事あるごとし。

元日の朝、晴れて風無し。

という石川啄木の短歌（『悲しき玩具』）。元旦が快晴で無風だったら、啄木のような心情になるかも知れない。なにしろ六年前の大震災は、つい昨日のよう

に思い起こされるし、昨年だけでも熊本・鳥取・茨城の大地震、また岩手豪雨や糸魚川大火など大災害が

発生した。ほかに、殺害、

いじめなどの問題も多発。

世界はテロが多発しており、やはり「今年はいい事ある」ように、願わざるを得ない。

もつとも啄木の場合「今年も」ではなく「今年は」とあるのは、この歌の詠まれた前年の十二月に刊行した『一握の砂』の稿料も得ていたし、勤務先の給料も昇級、賞与も受け取っていたから、一身上は明るい材料が揃っていたことになる。そうした心情がこの歌になったに違いな

い。そのせいか、珍しく正月の

短歌を十首ほど詠んでいる。ただ、

何となく明日はよき事あるごとく

思ふ心を

叱りて眠る。

という歌もあり、よい事に恵ばれなかった啄木の自制心も偲ばれて複雑であるが…。

元日や上々吉の浅黄空

と詠んだのは小林一茶。「上々吉」はこの上もない吉だが、初詣でをした神社などで、もしこ

の上々吉のくじを引いたりしたら、やはり「今年はいい事ある」と思いたい。「浅黄」は浅葱とも書き、薄い藍色・水色である。元日、空が水色に晴れたのである。

それは一茶にとって上々吉。いや、一茶のみならずその地に住む人々にとっては上々吉だったに違いない。なにしろ雪深い信濃（長野）である。連日のように空から落ちる雪を眺めている人々には、薄青色に晴れた空

を連想してしまふ。十九歳でキリスト教信者となった重吉は、熱烈な神任せ人生を送りながら、新しく歩もうと決意する。昨日も鮮やかな気持ちでうたったが、今日はまた昨日と違う鮮やかな気持ちでうたおうと詩人はいう。重吉のうたは詩は、新しくうたうことであつた。それは新しく生きることもあろう。

というわけで、今年の元日が晴れて無風だったこともあり、新しく歩むことで、「今年はいい悪い事が起こらないように望む

しだいである。

新春随想

啄木の元日など

参事 牛島 富美二（文芸部）



牛島 富美二
参事

を連想してしまふ。十九歳でキリスト教信者となった重吉は、熱烈な神任せ人生を送りながら、新しく歩もうと決意する。昨日も鮮やかな気持ちでうたったが、今日はまた昨日と違う鮮やかな気持ちでうたおうと詩人はいう。重吉のうたは詩は、新しくうたうことであつた。それは新しく生きることもあろう。というわけで、今年の元日が晴れて無風だったこともあり、新しく歩むことで、「今年はいい悪い事が起こらないように望むしだいである。」

第2・3回部長会議

議題は事業の点検など

本年度の第2回部長会議が12月2日、第3回部長会議が1月20日にそれぞれ開かれた。

第2回会議では「第53回芸術祭について」「各部署の点検について」などが議題となった。芸術祭関係では、来年度への課題として、展示会場の案内表

の改善、広報活動の強化、展示会場でのイベント等の工夫などが各部から報告された。

各部事業の点検では、8月上旬の各部へのヒアリングをもとに各部への共通課題とした①準会員制度の導入、②他部門とのコラボレーション、について話

芸術祭絵画展受賞者作品展 受賞作と新作セットで展示

第53回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展が12月20日から25日まで、仙台市青葉区の東京エレクトロンホール宮城5階展示室で開催された。宮城県文化振興財団との共催。

会場には第53回芸術祭絵画展受賞者28名(会員18名・公募10名)の受賞作と新作、各自2点、計56点の作品を展示。会期内の来場者は648名となった。本会場開催となつて3年。その年の芸術祭絵画展を代表する作家の秀作が揃う作品展として毎年好評を博している。より多

定禅寺フォトコンテスト 祭の写真など多数の応募

当協会と宮城県文化振興財団、宮城県との共催による第3回定禅寺フォトコンテスト入賞・入選の作品展が12月7日から13日まで、東京エレクトロンホール宮城5階展示室で開催された。

本年も定禅寺通りで行われる祭り等をテーマに、さまざまな風景や人物の写真が寄せられた。10月31日の応募締め切りまでに66点の作品が集まり、その中から34点(入賞10点、入選24

点)の作品が選ばれて展示された。初日の7日には受賞者の表彰式が行われた。来場者は385名であった。



宮城県芸術協会賞を授与する佐々木光一執行理事

好調な写真セミナー —延べ80人が受講—

写真部による写真セミナーは、せんだいメディアアテークを会場に、7月29日から12月8日まで、5回にわたって実施された。平成26年からの実施で、今年度から新たに芸術祭事業に組み込まれた。人材育成事業のひとつとして、写真の基礎を学びたい、デジタル写真のノウハウを知りたい、芸術写真を学びたい、写真展に挑戦したい、など多様なニーズに応えようとする試み。講師は写真部の運営委員が務めた。

内容は「写真の基本と写し方・見せ方」「フィルムとデジタル」「デジタル写真データ応用編、レタッチ等」「クリエイティブな映像(写真)の追求」など。かなり専門性の高い内容も含まれるが、毎回定員の20人近い受講者で賑わった。延べ人数は80人にのぼり、たいへん好評だった。

県が文化芸術振興ビジョン策定

重点取組は「震災からの心の復興」

宮城県は昨年、平成28年度から32年度までを計画期間とする「第2期宮城県文化芸術振興ビジョン」を策定した。宮城県文化芸術振興条例に基づくもので、平成17年度策定の第1期ビジョンに次ぐもの。当協会の大場尚文理事長も県文化芸術振興審議会副会長として、ビジョンの策定にあたった。第2期ビジョンでは、基本目標を「文化芸術の力で創造する

みやぎの未来」、施策展開の基本方針を「文化芸術の振興と継承」「あらゆる人が文化芸術を創造・発表・享受できる環境づくり」「文化芸術の持つ力の活用」とした。重点取組としては「文化芸術の力を活用した震災からの心の復興」をあげている。第2期ビジョンの詳細内容は、県のホームページに掲載されているほか、芸術協会事務局でも閲覧できる。

それぞれの期待を胸に、この旅行に参加したのは大場尚文理理事長ほか十三名。十一月九日午後二時、仙台空港に集った。そこに書道部の池田僊雲執行理事が、早朝筆を執ったという「宮城県芸術協会中国研修旅行」の横断幕を手に見送りに来てくだ

江南の旅～上海・烏鎮・紹興・杭州～

談論風発の旅

文芸部 (川柳) 津田 公子

研修旅行



杭州市靈隱寺で池田執行理事の書を前に記念撮影

さった。墨痕淋漓、漢字と書のご本家中国の旅にふさわしい出発となった。
中国国際航空機は、三時間余で夕闇の上海に着陸した。江上のレストランで夕食後、専用バスでホテルへ。車中でアメリカ大統領選挙の結果が伝えられた。

車窓から雑技団もどきの荷台満載のバイク二台を目にし、声があがる。夜も遅いのに路上はどの車線も車がひしめいている。クラクションも激しい。

◇第二日 上海から烏鎮
上海からバスで二時間余、烏鎮東柵見学。中国江南地方の水郷古文化村落として有名な地だ。ここは古い中国を残している。古民家・黒瓦、白壁、石畳。水路の両側に建ち並ぶ民家は、時間が止まったような感じ。水路を往来する船の音も優しい。ホテルの夕食後は古鎮散策に出る。宿の灯がぼつぼつとあり、

の作品の所。生家は旧家と言われただけに大きな屋敷である。ページをめくるように巡り歩いた。魯迅と仙台の深い縁を考えると、一層感慨深い。

◇第四日 杭州から上海
世界遺産の西湖へ。芭蕉が松島の美と比している。プラタナスの落ち葉も彩りを添える広大な風景である。その後、靈隠寺参詣。大きな禅寺で線香の香りに満ちている。上海へは高速鉄道で一時間余。夕食後、上海外灘・夜景の見物。林立するビル群とネオンがまばゆい。旅の終わりの夜は、熱気に満ちていた。

川面の半月とも和して、芭蕉の奥の細道での境地「旅心定まりぬ」の思いしきりである。

◇第三日 烏鎮から紹興・杭州
この日の第一見学地魯迅記念館前は、小学生をはじめ大勢の見学者で賑わっていた。地続きの魯迅古居は、氏の名作「故郷」

◇第五日 上海から仙台
この日も晴天。旅は土地と風光と人との出会いと言われるがすべてがマッチしたすばらしい日々であった。大場理事長はじめ和気藹藹。水を巡る談論風発の楽しい時間を共有できた。関係者の献身的なサポートにあらためて謝意を述べ、ペンを擱く。

吉住小とわ先生を偲ぶ

邦楽部 (長唄) 杵家 弥登鈴



芸術協会 家元のお許しのもと、ご指導頂名誉会員でいておりました。流派の違う唄ある吉住小とわ (中西が、唄い手としての様を丁寧な咲子) 先生 お教え頂きました。稽古部屋に

(邦楽部・長唄) が、十二月三日、九十七歳でご逝去されました。十一月半ばまでデイサービスセンターに元気で楽しく通っているご様子でしたが、胸の痛みのため二週間入院なされ、静かに旅立たれたとのことでした。

ある日の稽古場のひととき、江戸っ子であった師が、一度だけ大好きな落語を歯切れよく演じてくださいました。巧みなかくし芸に驚き、明るく人をもてなすお心に接し感銘した事を今でも忘れることができません。

先生におかれましては、毎年開催される長唄演奏会に九十歳まで出演され、ご活躍いたたいておりました。平成十七年に国内外との芸術文化の交流の一環として、青年文化センターで開催された「仙台・大邱交流音楽会」の運営、平成二十五年に音楽部が洋楽部と邦楽部 (長唄・三曲) に分かれた際のご尽力など、数多くの行事に功績を残されました。平成二十六年の芸術協会五十周年記念式典では協会から感謝状を授与されております。

しなやかながら凛々しく、芸の道を完遂されたお姿に心より敬意を表すと共に、吉住小とわ先生のありし日を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

第37回ピアノコンクール

応募者は116人

当協会主催の第37回ピアノコンクールが、本年度も日立システムズホール仙台（青年文化センター）で開催される。宮城県内の小・中学生および昨年度から拡大された高校生の音楽的資質向上に寄与するための事業で、期日は予選が2月11日（土・祝）本選は3月19日（日）。

審査員は予選を当協会洋楽部会員、本選を審査員長青柳晋氏（ピアニスト・東京藝術大学准

教授）と洋楽部会員が担当する。予選、本選の審査を経て、初級・中級・上級の級ごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞、作曲者賞が贈られる。そのほかに、特別賞として宮城県芸術協会賞などの表彰もある。

また前年度から、副賞として受賞者のうち審査員の推薦により選ばれた受賞者は『受賞者によるガラコンサート』（9月17日開催予定）に出演できることになった。申し込みは1月7日に締め切られ、応募者は116人だった。

ミュージックフェスタ2016

平成28年度のミュージックフェスタは、「みやぎミュージックフェスタ2016 in たいわ」として、2月19日（日）に大和町のまほろばホールで開かれる。当協会と宮城県文化振興財団、大和町、同町教育委員会、大和町文化振興協会との共催。

今回も、当協会会員と地元の中学校吹奏楽部や音楽団体との共演が企画され、地域との連携と交流が図られる。司会進行・指揮は当協会洋楽部の渡部勝彦執行理事が担当する。

事務局日誌

会務報告

- 12・2 第2回部長会議
- ☆第53回宮城県芸術祭について（宮城県芸術祭実行委員会）
- 各部事業の点検について
- 謝金等に関する規程について
- 12・9 第4回理事会
- 平成29年度予算の編成方針について
- 賛助会員の推薦について

後援

- ☆美里町「河北展」
- 12月3日～11日
- 美里町近代文学館
- ☆第3回日本画・緑彩会展
- 12月6日～11日
- 東北電力グリーンプラザ
- ☆第76回春のいけばな展
- 2月4日～7日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第7回青画会日本画展
- 2月28日～3月5日
- 東北電力グリーンプラザ
- ☆第70回記念書道芸術院展役員移動展及び東北総局展
- 3月24日～29日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第12回 ALL NIPPON D.A.T.E. クラシックバレエコンペティション MIYAGI
- 3月30日～4月1日

日立システムズホール仙台
☆第80回河北美術展
4月27日～5月9日

藤崎本館7階催事場他
☆2017みやぎを魅せる書展
4月28日～5月3日
せんだいメディアアテーク

会員の入賞・入選など

- ◇第41回新芸術展
- ▽文部科学大臣賞・理事推挙Ⅱ菊地禮蔵▽奨励賞・マツタ賞・評議員推挙Ⅱ山並進
- ◇第14回日本写真作家協会公募展
- ▽仙台市教育委員会教育長賞Ⅱ鎌田利明▽入選Ⅱ八巻純子

受贈書

（ ）は寄贈者
宮城の現代詩2016（宮城県詩人会）、現代詩文庫234原田勇男詩集（原田勇男）、みちしお（紺野勝司）、したたる瞬間を（及川良子）、本郷浩写真集荒浜（本郷浩）

謹弔

- 茶道部（三彩流） 佐藤恵華 殿 4月15日
- 茶道部（織田流） 大沢南佳 殿 11月7日
- 邦楽部（長唄） 吉住小とわ 殿 12月3日
- 茶道部（表千家） 仙石宗与 殿 12月21日
- 賛助会員 後藤泰蔵 殿 12月27日

けやきの譜

昨年是一年間、人気グループ SMAP（スマップ）の解散騒動に明け暮れたような気がする。NHKの紅白を含めて、SMAPのいない年末は何か忘れものでもしているような感じであった。代わりに、聞きたくもないのにこれでもかと耳に入ってきたのが、ピコ太郎なる男の珍妙な歌？これも芸術の部類か▼今年には平成で三度目のトリ年。昨年末から衆院解散→総選挙の可能性が浮かんでは消えてきたが、トリ年のわが国は結構、政治の転換点を経験してきた▼佐藤内閣時代の沖縄返還合意をめぐる解散→総選挙（1969年）、自民党の野党転落と55年体制の崩壊（1993年）、郵政解散（2005年）など▼今年には天皇陛下の生前退位をめぐる論議、衆院小選挙区の区割り変更、東京都議選などを背景に、米国のトランプ新政権スタートという超不確定要素も加わって、一寸先はまきに見通せない。どんな展開になるうとも、私たちは芸術の本道を淡々と、堂々と進みただけだと、あらためて思いを新たにしている。（恂）